

# 県内大学の社会貢献活動及び協働の実態調査（抜粋）

## I. 16大学のプロフィール、概要

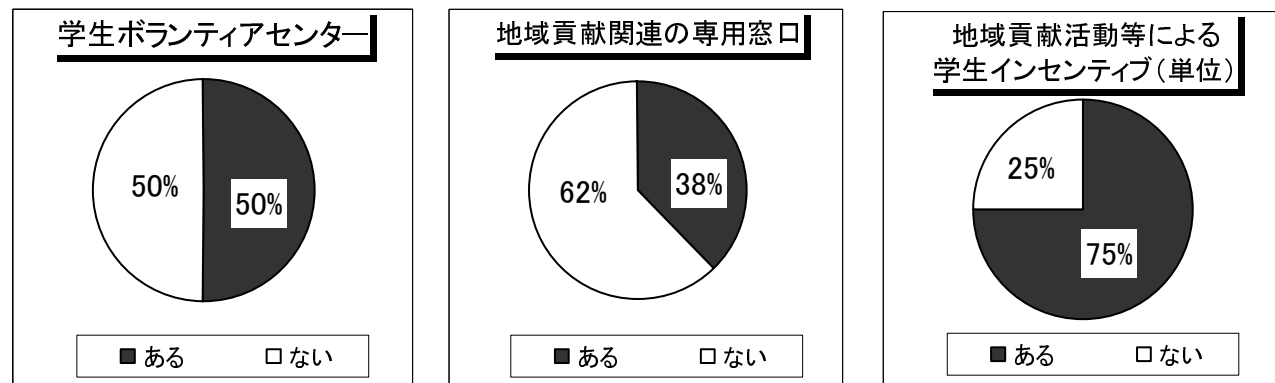
- 国公立分類をみると、69%が私立大学と多い一方、国立は19%、公立は12%に止まる。
- 大学所在地についてみると、北和地域が69%ともっとも多く、次いで、中和地域（31%）と続く。一方、東和地域、南和地域には立地していない。
- 学部分類についてみると、文系学部のある大学等が75%と多い一方、理系のある大学等は44%に止まる。
- 生徒数については、4つの短期大学のうち3つが500人未満であるのをはじめ、全体の44%が生徒数1000人未満、69%が2000人未満であり、生徒数の少ないコンパクトな大学が多くなっている。

<b>▶（国公立分類）</b> 国立 19% 公立 12% 私立 69%	<b>▶（大学所在地）※</b> <b>北和地域 69%</b> <b>中和地域 31%</b> 東和地域 0% 南和地域 0%	<b>▶（学部分類）</b> 文系 75% 理系 44% 芸術・スポーツ系 19%	<b>▶（生徒数）</b> <b>500人未満 19%</b> <b>500~999人 25%</b> <b>1000~1999人 25%</b> 2000~2999人 19% 3000人以上 12%
---	--	--	---

※北和地域(奈良市、大和郡山市、天理市、生駒市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町)  
 中和地域(大和高田市、橿原市、桜井市、御所市、香芝市、葛城市、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町)  
 東和地域(宇陀市、山添村、曾爾村、御杖村)  
 南和地域(五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村)

## II. 「協働」による、社会貢献活動及び地域での取組みの窓口について

- 学生ボランティアセンターを有する大学は全体の50%となっている。また、センターを有しない大学についても、全ての大学で学生課などを窓口として学生ボランティアのコーディネートを行っている。
- 地域貢献、社会貢献活動等の専用窓口を有する大学は全体の38%となっている。また、専用窓口のない大学についても、大半は総務部などで窓口業務を兼務している。
- 75%の大学において、演習カリキュラムや研究室での地域貢献活動が、単位や論文テーマになるなどして、学生にインセンティブが付与されている。



- ▶（地域貢献の専用窓口についての回答例）  
 ○学長がセンター長を兼任する窓口「地域貢献センター」を設置し、地域貢献活動を一覧表にして整理。
- ▶（地域貢献活動等による学生インセンティブの付与例）  
 ○学生が社会や地域の現場で学習する「プロジェクト演習」を、全学生の必須科目として採用。  
 ○文科省・現代G Pの採択事業である教育プログラムに、学生が参加し単位を取得。  
 ○研究室で取り組んでいるまちおこし活動の中で、学生数名が卒業論文のテーマを発掘し作成した。

## III. 「協働」による社会貢献活動及び地域での取組みの実態状況

- 奈良県内の16大学では、全て地域との協働事業を実施している。
- 協働事業の内容としては、「まちづくり・地域振興」が37%ともっとも多く、次いで、「文化・芸術・スポーツの振興」（25%）、「子育て支援、子供の健全育成」（22%）と続く。
- 協働事業の実施地域については、大学の所在地と同様、北和地域が54%ともっとも多く、次いで、中和地域（33%）と続く。一方、東和地域、南和地域にはあまり実施されていない。
- 協働事業の連携先は、「奈良県内の市町村」（50%）がもっとも多く、次いで「奈良県」及び「企業等」（20%）と続き、奈良県内の行政が第1位と第2位となっておりかなり多い。次いで、「自治会等地縁団体」（15%）「小・中・高校」（13%）、「ボランティア・NPO」（12%）と続く。

<b>▶（協働事業、社会貢献活動のテーマ）</b> ※計107事業中 <b>まちづくり・地域振興 37%</b> <b>文化・芸術・スポーツ振興 25%</b> <b>子育て支援・子供の健全育成 22%</b> 環境保全 14% 社会教育の推進 14% 保健・医療 12% 障がい者支援 9% 科学技術振興 7% 高齢者支援 3% 国際協力・国際交流 3% その他 6%	<b>▶（実施地域）</b> ※計107事業中 <b>北和地域 54%</b> <b>中和地域 33%</b> 東和地域 1% 南和地域 4% 奈良県全域 6% 奈良県外 10%	<b>▶（協働事業、社会貢献活動の連携）</b> ※計107事業中 <b>奈良県内の市町村 50%</b> <b>奈良県 20%</b> <b>企業等 20%</b> 自治会等地縁団体 15% 小・中・高校 13% ボランティア・NPO 12% 大学 7% 幼稚園保育所 4% その他 20%
---	--	--

## IV. 「協働」による社会貢献活動及び地域での取組みを進める上での成果及び課題など

- 大学が「協働」による社会貢献活動及び地域での取組みを進めることで、学生による地域や社会の現場体験、学生の就職先の発掘、新たな研究テーマの発掘、新たな事業・取組みへの展開、大学の情報発信・PRの推進、地域の企画・調整役としての能力発揮、地域・地元による評価の向上、「奈良」ブランドの育成など、さまざまな成果があると回答されている。
- 一方、取組みを進める上での問題点・課題として、学生によるボランティア活動への参加意欲低下や活動時間確保、教員間の取組みに対する意識格差や活動時間確保、大学自体の活動等の情報発信不足、協働相手との役割分担の明確化、大学への相談窓口の整備、大学間の連携不足などが指摘されている。

<b>▶（協働事業、社会貢献活動の取組み成果おもな回答内容）</b> <b>学生</b> ○学生による、地域や社会の現場体験 ‘地域社会における作法を学ぶ。 ○学生の就職先の発掘 <b>教員</b> ○新たな研究テーマの発掘（教員、学生） <b>大学</b> ○新たな事業・取組みへの展開 ○大学の情報発信・PRの推進 ○地域の企画・調整役としての能力発揮 ○地域・地元による評価の向上 ○「奈良」ブランドの育成	<b>▶（協働事業、社会貢献活動の取組みを進める上での問題点・課題、他の主体に対する要望 など）</b> <b>学生</b> ○ボランティア活動への参加意欲の低下 ○活動時間の確保（学問、アルバイト等との調整） <b>教員</b> ○教員間の協働の取組みに対する意識格差 ○活動時間の確保（研究活動との調整） <b>大学</b> ○活動等の情報発信不足 ○協働相手との役割分担の明確化 ○大学への相談窓口の整備（設置、一本化） ○大学間の連携不足 <b>他の主体に対する要望など</b> *自治体 情報発信支援、各地域の情報提供 *企業 地域貢献活動の不足 *地域 地域社会に対する意識低下
---	---